

平成 22 年 5 月 30 日現在

研究種目：基盤研究 (B) [海外学術]

研究期間：2007年度～2009年度

課題番号：19401020

研究課題名 (和文) 危機に瀕した古アジア諸語の系統的・類型的多様性に関する調査研究

研究課題名 (英文) A Study of the Genealogical and Typological Diversity of Endangered Paleosiberian Languages

研究代表者

呉人 恵 (KUREBITO MEGUMI)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：90223106

研究成果の概要 (和文)：北東アジアの危機に瀕した古アジア諸語に属するユカギール語、チュクチ語、コリャーク語、ニヴフ語に関して、各メンバーが現地調査に基づき、音韻、文法面に見られる諸特徴を系統的・類型的視点から整理分析し、相互比較をおこなった。

研究成果の概要 (英文)：This study facilitated research on endangered Paleosiberian languages spoken in Northeast Siberia, such as Yukaghir, Chukchi, Koryak, and Nivkh. On the basis of each fieldwork, it analyzed the phonological and grammatical features from genealogical and typological perspectives and conducted a mutual comparison among these languages.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2008年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2009年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
年度			
年度			
総計	13,000,000	3,900,000	16,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：古アジア諸語、コリャーク語、ユカギール語、チュクチ語、ニヴフ語、音韻論、文法、類型論的比較研究

1. 研究開始当初の背景

北アジアの古い言語の名残を留める古アジア諸語に関する過去の研究の大半は、ロシア人言語学者によるものであった。特に19世紀から20世紀にかけてシベリアの流刑地に送られた政治犯による言語記述は、本格的な古アジア諸語研究の先駆けとなった。さらにソビエト政権下では、先住民の協力のもとに組織的な文法、辞書、教科書の編纂事業が進められた。

しかし、1990年前半に始まるペレストロイカ以降、研究状況は一転した。すなわち、

ロシア人による現地調査が資金調達の難しさから困難になるのに反比例するように、外国人、とりわけ日本人研究者による現地調査が活性化し、一次資料にもとづく文法記述や辞書やテキストの編纂が精力的におこなわれるようになってきた。

本研究は、そのような日本人研究者をメンバーとしており、本研究を始めるにあたっては、言語間の類型論的比較研究をおこなうに足るデータがそれぞれの言語において蓄積されてきつつあったという背景がある。特に、古アジア諸語に属する諸言語は相互に系統

を異にするのみならず、類型的にも多様である。音韻、形態、統語のいずれにおいても、他の言語から明確に区別されるような古アジア諸語独自の共通の構造的特徴はこれまで見出されていない。とはいえ、個別に共通する諸現象については、近年の古アジア諸語研究の進展により、その詳細が明らかにされつつある。このように、古アジア諸語に関する知見が集積されつつあるこの時期に本研究をスタートさせることは大いに意義があると考えた次第である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、次のとおりである。

- A) 古アジア諸語に属する諸言語(ユカギール語、チュクチ語、コリヤーク語、ニヴフ語)の一次資料をより一層充実させていくことにより、各言語の記述を精緻化させ、その性格を浮き彫りにする。
- B) 一次資料の蓄積を基に、各言語間の類型的な比較研究をおこない、多様性の背景にある各言語の歴史的問題や言語接触による影響関係のメカニズムの問題などに探りを入れる。

これらの目的を実現するために、具体的には、次のような研究をおこなう。

- a) 現地調査による一次資料の収集
- b) フォーマルな文法記述
- c) 類型論的比較研究

3. 研究の方法

基本的には、各メンバーが各年度一回ずつの現地調査と、それによって得た一次資料の整理分析を柱に研究を進めていった。研究内容は、各メンバーがこれまでおこなってきた現地調査と、それによって得た成果と課題に基づき決定した。具体的には次の通りである。

研究代表者の呉人(恵)は、当初の計画の通り、現地調査により、コリヤーク語の音韻、形態、統語にわたる諸現象の解明に努めるとともに、すでに出版されているテキストM. Куребито・Т. Н. Аяггинина (2006) の整理分析をおこなった。また、メンバー全員の成果のとりまとめをおこなった。分担者の遠藤は、ユカギール語の現地調査および文献資料調査による資料収集をおこなうとともに、調査結果および既存の文献資料の言語コーパス化の推進を進め、類型論的視野によるユカギール語(特にコリマ・ユカギール語)の文法的特徴の再検討をした。呉人(徳司)は、チュクチ語の特に他動性と能格性という動詞の形態論・統語論的特徴に焦点を当てて調査研究を進めるとともに、辞書と民話テキストの編纂をおこなった。白石は、ニヴフ語の音韻論では子音連続、文法では所有表現とそれにかかわる母音脱落現象に焦点をあて、データの収集ならびにその分析に努めた。また、

音声資料のデジタル化やテキスト編纂を進めた。

4. 研究成果

各メンバーがそれぞれの専門とする言語に関し、現地調査をおこなうことによって一次資料を収集するだけでなく、その一次資料をテキストや音声資料として公刊した。また、各メンバーは最終的にはそれぞれの言語のフォーマルな文法を編纂することを目標としているが、本研究では、それぞれが課題としている問題について、考察を深め、文法記述をさらに進めることができた。

各メンバーの具体的な研究成果は以下のとおりである。

呉人(恵)は、現地調査により新たなコリヤーク語の一次資料を収集するとともに、インフォーマントとの協力体制により、すでに公刊済みの Куребито・Т. Н. Аяггинина (2006) の形態素分析ならびに英訳を進め、その公刊の準備をおこなった。また、その分析作業の中で、特に動詞の屈折に関する諸問題を発掘し、考察を深めた(呉人恵 2010a)。文法面では、特に、名詞修飾構造に焦点をあて、関係節形成のストラテジーの解明(呉人恵 2008, M. Kurebito 2008)、形容詞分類(呉人恵 2009)、形容詞と属性叙述の関連性、コリヤーク語の属性叙述の形態的・統語的特徴などの解明(呉人恵 2010b, 近刊)に取り組んだ。これらはすべて、コリヤーク語の文法現象の詳細に記述であるとともに、類型論的視点からの通言語的な比較研究でもある。特に、連体修飾構造については、遠藤も下記の通りユカギール語に関し研究を進めたため、相互に比較研究が可能となった。

遠藤は、現地調査により、特にコリマ・ユカギール語を中心とする新たな資料を収集するとともに、資料のコーパス化に取り組み、ユカギール語(特にコリマ・ユカギール語)の個々の形態音韻論的・文法的項目に関して可能な限り多数のデータを揃えた。さらに、コリマ・ユカギール語の形態音韻論的特徴についてフォーマルな記述を進め、一般言語学的視野から考察した(遠藤 近刊)。またコリマ・ユカギール語の連体修飾構造・語形成の手法に関して類型論的視野から再検討し、結果となる論文を刊行した(遠藤 2010)。

呉人(徳司)は、チュクチ語の形態音韻的特徴の一つである母音調和について記述を行い、モンゴル語のようなアルタイ諸語の母音調和と比較して、両者の類似点、相違点を明らかにした(T. Kurebito 2008)。文法に関しては、チュクチ語のヴォイスに関するこれまでの研究をさらに進化させ、使役、逆使役、逆受動のメカニズムを明らかにした(T. Kurebito 2008, 呉人徳司 2010)。また、現地調査で収集したチュクチ語の民話資料を音

韻表記するとともに、ロシア語、英語訳を付して出版し、現地の学校教育の補助資料として使えるようにした(T. Kurebito (ed) 2010)。チュクチ語に関する辞典『チュクチ語・フランス語・英語・ロシア語辞典』のための補足調査を行ない、多くの用例を収集し、出版に向けて編集作業を進めた結果、2010年度中に出版する見通しができた。この辞典は700ページを超える大型の辞典になるが、チュクチ語の今後の研究のみならず、現地のチュクチ人の学校教育にも大いに活用されることが期待される。

白石は、子音連続、母音脱落の双方について研究成果を国内外のいくつかの学会で発表するとともに、投稿中のものも含め、このテーマについて研究論文を複数執筆し、公開した(Shiraishi 2008, 2009a, 2009b, 2009c)。ニヴフ語の子音連続はその種類の豊富さから従来とかくその特異性のみが強調されてきたきらいがあったが、本研究はニヴフ語の子音連続は音韻理論の枠組みの中で捉えなおし、その特性を適正に評価するための道筋をつけたものであると考える。このように本研究はこれまでほとんど知られていなかったニヴフ語における韻律単位の安定度をフィールドワークにより収集した新たなデータを基に論じ、韻律単位の形成にかんする言語横断的な議論に寄与するものである。さらに、ニヴフ語音声資料も毎年着実に公刊した(白石・ローク 2007, 2009a, 2009b)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 20 件)

- ① 呉人恵「コリヤーク語の属性叙述－主題化のメカニズムを中心に」『言語研究』, 査読あり(採択済み), 近刊
- ② 呉人恵「コリヤーク語の-Nvoが表わす始動アスペクトと習慣アスペクト」『北海道立北方民族博物館紀要』, 査読あり, 19号, 2010, 1-13
- ③ 呉人恵「時間的安定性から見たコリヤーク語の形容詞事象叙述文」呉人恵編『環北太平洋の言語』, 査読なし, 15号, 2010, 31-44
- ④ 遠藤史「ユカギール人(下)－W.ヨヘリソンのユカギール民族誌より」『経済理論』, 査読なし, 354号, 2010, 125-143
- ⑤ 遠藤史「コリマ・ユカギール語の複合名詞とその類型論的位置づけ」呉人恵編『環北太平洋の言語』, 査読なし, 15号, 2010, 1-15
- ⑥ 呉人徳司「チュクチ語の結合価の変更について」『アジア・アフリカの言語と言語学』, 査読なし, 4号, 2010, 111-132

- ⑦ 呉人恵「コリヤーク語の形容詞－その動詞的および名詞的性格と類型論的位置づけ－」『アジア・アフリカ言語文化研究』, 査読あり, 77号, 2009, 35-62
- ⑧ 遠藤史「ユカギール人(上)－W.ヨヘリソンのユカギール民族誌より」『経済理論』, 査読なし, 352号, 2009, 169-193
- ⑨ Kurebito, Tokusu Some Note on the Chakhar Dialect Spoken in Xinjiang, *Proceedings of the Second International Conference 'Past and Present of the Mongolic Peoples*. In T.Kurebito (ed.), 査読あり, 2009, 363-368
- ⑩ Shiraishi, Hidetoshi Modeling Initial Weakening, *Strength Relations in Phonology*. In Kuniya Nasukawa and Phillip Backley (eds.) Berlin: Mouton de Gruyter, 査読なし, Vol.2, 2009, 183-218
- ⑪ Shiraishi, Hidetoshi Quantitative Adjustment in Nivkh, *Current Issues in Linguistic Interfaces*. In Young-Se Kang et al.(eds.), 査読なし, Vol.2, 2009, 321-332
- ⑫ Shiraishi, Hidetoshi On the alternation between CVCVC and CVCC forms in Nivkh, 津曲敏郎編『サハリンの言語世界』, 査読なし, 2009, 85-94
- ⑬ Kurebito, Megumi Participial Relative Clauses in Koryak and their Typological Characterization, *Linguistic Typology of the North*, 査読なし, Vol.1, 2008, 29-42
- ⑭ 遠藤史「コリマ・ユカギール語テキスト頻度順単語リスト」『和歌山大学経済学部Working Paper Series』, 査読なし, Vol.09/03, 2008, 73-86
- ⑮ Kurebito, Tokusu Valency Changing in Chukchi, *Linguistic Typology of the North*, 査読なし, Vol.1, 2008, 73-86
- ⑯ Kurebito, Tokusu A Study of Vowel Harmony in Mongolian and Chukchi: Directionality vs. Dominance, *Altaic Studies*, 査読なし, Vol.2, 2008, 61-70.
- ⑰ Shiraishi, Hidetoshi Nivkh, *Lenition and Fortition*, Berlin: Mouton de Gruyter, 査読あり, 2008, 387-413
- ⑱ 呉人恵「分詞および関係詞によるコリヤーク語関係節の相補的形成」『北方人文研究』, 査読あり, 1号, 2008, 19-39
- ⑲ Kurebito, M. Endo, F. and Tsumagari, T. Siberia: Tungusic and Palaeosiberian, *The Vanishing Languages of the Pacific Rim*, Oxford: Oxford University Press, In Osahito Miyaoka (ed.), 査読なし, 2007, 387-405
- ⑳ 白石英才「ニヴフ話者が所有する録音資料について」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』 査読なし, 10号, 2008, 101-104

[学会発表] (計 12 件)

- ① 呉人恵「コリヤーク語形容詞のプロトタ

- イプーその動詞性・名詞性をめぐって」, 第1回北方言語類型論研究会, 2009.5.9, 東京外国語大学サテライト
- ② Kurebito, Megumi Formation of Split-adjectives and its Typological Characterization in Koryak, The Eighth Biennial Conference of the Association for Linguistic Typology, 2009.7.25, University of California Berkeley, U.S.A
 - ③ Kurebito, Megumi Agreement Phenomena of Adnominal Attributes in Koryak Examined by Language Contact, The 16th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2009.7.30, Univ. of Kunming, China
 - ④ Kurebito, Tokusu Comparative Study of the Voice in Mongolian Dialects, The 52nd Annual meeting of the PIAC 'Myth and Mystery in the Altaic World', 2009.7.27, Inner Mongolian University, China
 - ⑤ Kurebito, Tokusu The Importance of Native Language Education: A Lesson from Chukchi Experience, The 16th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 2009.7.29, Univ. of Kunming, China
 - ⑥ Kurebito, Tokusu The Relationship between Causative and Passive in Mongolic Languages: with a focus on Mongolian Languages, The 20th anniversary of Korean-Mongolian diplomatic relations 'KAMS International Symposium', 2010.3.28, Seoul, Korea
 - ⑦ Shiraishi, Hidetoshi, Quantitative Adjustment in Nivkh, The 2009 Seoul International Conference on Linguistic Interfaces (SICOLI 2009), 2009.6.24, Yonsei University, Seoul, Korea
 - ⑧ 呉人恵 「コリヤーク語の分詞による関係節と格標示」「危機言語小委員会企画ワークショップ「関係節の類型論：フィールドから見えてくる言語の多様性Part3」(日本言語学会第136回大会), 2008.6.21, 学習院大学
 - ⑨ 呉人徳司 「チュクチ語の態について」国立民族博物館共同研究プロジェクト「世界の言語の態について」研究会, 2009.2.7, 国立民族博物館
 - ⑩ 白石英才 「ニヴフ語におけるCVCVC語形とCVCC語形の交替について」公開シンポジウム「サハリンの言語世界」, 2008.9.6, 北海道大学文学研究科
 - ⑪ 白石英才 Empty Nucleus in Nivkh, 日本言語学会第137回大会, 2008.11.29, 金沢大学
 - ⑫ Shiraishi, Hidetoshi, Topics in Nivkh Phonology,

日本音韻論学会主催 Phonology Forum, 2007.8.28, 札幌学院大学

〔図書〕(計7件)

- ① Kurebito, Tokusu (ed.) Faculty of Humanities, University of Toyama, *Chukchi Folktales*, Chukotka Studies No.5, 2010, 123pp
- ② 白石英才 / ガリーナ・ローク, 札幌学院大学, ニヴフ語音声資料6, 2009, 98pp
- ③ Shiraishi, Hidetoshi, VDM Publishing House, *Topic of Nivkh Phonology: A Description and Analysis of the Sound System of Nivkh*, 2009, 136pp
- ④ 呉人恵, 北海道出版会, コリヤーク言語民族誌, 2009, 379pp
- ⑤ 遠藤史, 和歌山大学経済学部, コリマ・ユカギール語辞書作成の基礎的研究, 2009, 158pp
- ⑥ 白石英才 / ガリーナ・ローク, 札幌学院大学, ニヴフ語音声資料5, 2009, 123pp
- ⑦ 白石英才 / ガリーナ・ローク, 札幌学院大学, ニヴフ語音声資料4, 2007, 111pp

〔その他〕

ホームページ等

<http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/hidetos/> (白石英才)

<http://www3.aa.tufs.ac.jp/~tugusk/> (呉人徳司)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

呉人恵 (KUREBITO MEGUMI)

富山大学人文学部・教授

研究者番号：90223106

(2) 研究分担者

遠藤史 (ENDO FUBITO)

和歌山大学経済学部・教授

研究者番号：20203672

呉人徳司 (KUREBITO TOKUSU)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：40302898

白石英才 (SHIRAISHI HIDETOSHI)

札幌学院大学経済学部・准教授

研究者番号：10405631

(3) 連携研究者

()

研究者番号：